

2019年度 長野 陸上競技協会 事業報告 (日本陸連提出)

<p>1. 選手強化 (競技の研究や選手指導など)</p> <p>選手強化育成事業、派遣事業とも例年通り実施し、以下のとおりの結果を取めた。</p> <p>(1) 第74回国民体育大会：成年女子1500m優勝他11種目入賞、得点54点。天皇杯得点54点、競技別順位19位/47、皇后杯得点26点 競技別順位23位/47</p> <p>(2) 第50回ジュニアオリンピック陸上競技大会：女子共通ジャベリック・スロー優勝(2年連続)58m63(日本中学最高)、県中学新。全体で4種目に4名が入賞した。高校1年生2名が出場し1名が入賞した。</p> <p>(3) 第35回東日本女子駅伝：3位 2時間20分19秒</p> <p>(4) 天皇盃第25回都道府県対抗男子駅伝 優勝(8回目)、2時間17分11秒(県新)。皇后盃第38回全国都道府県対抗女子駅伝：4位(過去最高)、2時間16分37秒(県新)。</p> <p>上記成績から一定の事業評価はできると考える。今後は更に、強化策を工夫し、全国で活躍できる選手の継続的育成に努めなければならない。</p>
<p>2. 普及育成 (講習会の開催および指導者の養成など)</p> <p>(1) 各専門部の練習会や記録会を計画どおり実施した。しかし2月以降の各種講習会、記録会等は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。</p> <p>(2) 第35回全国小学生陸上競技交流大会へ長野県選手団として、監督1名、指導者2名(公認指導者)、支援コーチ7名、計11名、選手14名を派遣し、4種目で入賞を果たした。</p> <p>(3) 全国小学生クロスカントリー研修大会には駒ヶ根中沢RCを派遣した。(結果28位)</p> <p>(4) ジュニア(中学生)の普及強化については、選手育成事業として定期的実施した。</p> <p>(5) 日本スポーツ協会公認指導者資格取得研修会へ3名を派遣し、公認コーチ3の資格を所得した。</p> <p>(6) ジュニアコーチ「陸上競技公認コーチ1」養成講座を12/1、12/7、12/8に長野市で開催した。</p>
<p>3. 競技会の開催</p> <p>競技会及び駅伝大会は全て予定通り終了した。今年度の大きな課題は、競技役員に係わる事故対策である。昨年度は2件の重大事故の他に、「ひやり」「はっと」が報告され、これらの反省をもとに審判員として、「すべき行為をしなかった場合」と「すべきではない行為をした場合」等に分類し対策を練って来たはずであるが、残念ながら各地区までこれらの意図や意識が浸透していないことを本協会として認識しさらに改善を図る必要がある。</p>
<p>4. 審判員の養成およびその資格を認定</p> <ul style="list-style-type: none">・S級昇格14名を日本陸連へ推薦し全員が認められた。また、A級昇格10名、B級新規取得61名(一般22名、高校・高専3年生39名)となった。今年度も高校3年生対象の講習会を実施した。・2020~2021年度技術役員に、2名を継続推薦し認められた。・後小路正人先生(普及強化コーチ)が県内では初となる第6期(2020~2023年)JRWSに認定された。
<p>5. 機関紙および刊行物の発行</p> <p>会報：第166号令和元年7月27日発行、第167号令和2年1月1日、第168号令和2年3月31日発行。H31-R1年度長野陸協要覧を7月27日に発行した。</p>
<p>6. その他 (陸上競技協会の目的を達成するために必要な事業)</p> <ul style="list-style-type: none">・2019年度は役員の改選を行い令和元年5月26日(日)に第9期がスタートした。事業全般については、日本陸連主催大会の第21回長野マラソンと第103回日本陸上競技選手権大会混成競技の主管の他、台風19号の影響で長野県選手権混成競技とオータムトライアルを中止した以外は予定通り事業を実施した。・大きな課題である2027年の長野国体に向けては、11月22日に本協会の要望が全て満たされたわけではないが、最大の懸案事項であった現在の松本平運動公園陸上競技場を改築して新しい競技場にしていただけの長野県の方針が示された。引き続き、2017年度に立ち上げた4プロジェクトをさらに活性化させ、準備を進める必要がある。・国体練習会場における本県選手の衝突事故や長野県高校大会並びに高校地区大会における審判業務に関する諸問題について、本協会としても改善策等を真摯に取り組み様々な観点からより良い競技会運営について検討している。・10月の台風19号により東北信を中心に甚大な被害があった。本協会では中止となった長野県選手権混成競技とオータムトライアルの参加料から、必要経費を差し引いた額に本協会予備費を加え合計100万円を信濃毎日新聞社の「台風19号災害義援金」に託した。また、被災された会員の方々にお見舞いを申し上げるとともに心ばかりの見舞金を支出した。

2019年度事業報告(5月30日第25回評議員会承認)

(代表理事・業務執行理事関係)

I. 定款第10条(1)に即した事業報告

<全般>

2019年度は役員の改選を行い令和元年5月26日(日)に第9期がスタートした。事業全般については、日本陸連主催大会の第21回長野マラソンと第103回日本陸上競技選手権大会混成競技の主管の他、台風19号の影響で中止した長野県選手権混成競技とオートムトライアルを中止した以外は予定通り事業を実施した。

また、大きな課題である2027年の長野国体に向けては、11月22日に本協会の要望が全て満たされたわけではないが、最大の懸案事項であった現在の松本平運動公園陸上競技場を改築して新しい競技場にしていただける長野県の方針が示された。引き続き、2017年度に立ち上げた4プロジェクトをさらに活性化させ、準備を進める必要がある。

その他、国体練習会場における本県選手の衝突事故や長野県高校大会並びに高校地区大会における審判業務に関する諸問題について、本協会としても改善策等を真摯に取り組み様々な観点からより良い競技会運営について検討している。

10月の台風19号により東北信を中心に甚大な被害があった。本協会では中止となった長野県選手権混成競技とオートムトライアルの参加料から、必要経費を差し引いた額に本協会予備費を加え合計100万円を信濃毎日新聞社の「台風19号災害義援金」に託した。また、被災された会員の方々にお見舞いを申し上げるとともに心ばかりの見舞金を支出した。

<項目別>

1. 陸上競技の普及に関すること

(1)各専門部の練習会や記録会を計画どおり実施した。しかし2月以降の各種講習会、記録会等は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。

(2)第35回全国小学生陸上競技交流大会(8/9~11、神奈川)へ長野県選手団として、監督1名、指導者2名(公認指導者)、支援コーチ7名、計11名、選手14名を派遣し、4種目で入賞を果たした。

(3)全国小学生クロスカントリー研修大会(12/8、大阪)には駒ヶ根中沢RCを派遣した。(結果 28位)

(4)全国普及育成担当者会議へ普及部長を派遣した。

(5)ジュニア(中学生)の普及強化については、選手育成事業として定期的に実施した。

(6)長野国体開催に向けて、強化を進めたが、今後さらに、小学生からの選手発掘、中高連携等育成を計画的に実施する必要がある。

2. 強化・育成、長野県の代表選手の選定と派遣

選手強化育成事業、派遣事業とも例年通り実施し、

以下のとおりの結果を収めた。

(1)第74回国民体育大会:10月4日(金)~8日(火)、茨城県笠松運動公園陸上競技場。競技成績は、萩谷 楓 成年女子1500m 優勝他11種目入賞、得点54点。天皇杯得点54点(参加点10点含む) 競技別順位 19位/47 (H30:43.5点 27位、H29:65点 11位)、皇后杯得点26点(参加点10点含む) 競技別順位 23位/47 (H30:30.5点 16位、H29:41点 9位)

(2)第50回ジュニアオリンピック陸上競技大会:10月11日(金)のみ、12-13日中止、横浜・日産スタジアム 倉田 紗優加(南箕輪3) 女子共通ジャベリック・スロー 優勝(2年連続)58m63(日本中学最高)、県中学新。1日開催であったが、全体で4種目に4名が入賞した。高校1年生2名が出場し1名が入賞した。

(3)第35回東日本女子駅伝:11月10日、福島市(42.195km)、3位 2時間20分19秒

(4)天皇盃第25回都道府県対抗男子駅伝競走大会:令和2年1月19日、優勝(8回目)、記録2時間17分11秒(県新)。皇后盃第38回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会:令和2年1月12日、4位(過去最高)、記録2時間16分37秒(県新)。

(5)世界大会への出場と結果

世界大会に以下の選手が出場し成果を高めた。

1)第30回ユニバーシアード競技大会(2019/ナポリ)

・デーデー ブルーノ(東海大2)

4×100m 優勝 38秒92(第4走者)

100m 予選3着 10.42、準決4着 10.50

・和田 有菜(名城大学2)

3000m 4位入賞 15:56.94

2)第43回世界クロスカントリー選手権(オーフス/デンマーク) シニア男子10km 78位 35:01

・中谷 雄飛(早稲田大学1)

3)第3回アジアユース選手権(香港)

・高松 いずみ(長野東高校2)

女子3000m 2位 9:59.50

4)第27回日・韓・中ジュニア交流競技会(中国・長沙)

・高松 いずみ(長野東高校3)

女子1500m 2位 4:39.30

(6)全国主要大会の入賞状況

・日本選手権(トラック・フィールド、入賞なし)

・日本学生(優勝1、入賞7) ※リレーを含む

・全国高専(優勝3、入賞8)

・全国高校総体(入賞4)

・全日本中学陸上(入賞4)

・小学生交流大会(入賞2)

・U20(入賞1)-U18(優勝1、入賞1)

・ジュニアオリンピック1日開催(優勝1、入賞3)

上記成績から一定の事業評価はできると考える。今後は更に、強化策を工夫し、全国で活躍できる選手の継続的育成に努めなければならない。

3. 陸上競技の大会及び記録会を開催すること

2019年度のトラック・フィールド競技会及び駅伝大会は全て予定通り終了した。今年度の大きな課題は、競技役員が係わる事故対策である。昨年度は2件の重大事故の他に、「ひやり」「はっと」が報告され、これらの反省をもとに審判員として、「すべき行為をしなかった場合」と「すべきではない行為をした場合」等に分類し対策を練って来たはずであるが、残念ながら各地区までこれらの意図や意識が浸透していないことを本協会として認識しさらに改善を図る必要がある。加えて、長野県高校新人大会 5000m 競歩失格に関する執拗な申し入れについては、当日のジャッジのみならず、過去2年間の地区高校大会と地区高校新人大会、並びに指導者や審判員に関する内容が混在しており、改めて、高校・中学大会や各種記録会においても、本協会の競技運営方針・審判編成方針等について徹底を図る必要性を強く感じた。今後も継続的にあらゆることを想定し緊張感をもった業務遂行ができるよう研修を重ねる必要がある。昨年の反省同様、審判員の長時間に及ぶ業務を避けるなどの審判業務軽減、審判員の若返りとともに、審判数の増加も大きな課題である。審判員獲得対策の一つとして、昨年度から高校3年生を対象に新規審判講習会を開催し、今年度も高校3年生50名余りの参加を得たことは明るい話題であり、今後も浸透をさせ、審判員増加を図りたい。

また、競技会への「医師」の常駐が義務付けられているが、2日～3日間連続で一人の医師をお願いすることは困難であるため、ご担当頂ける医師を年度当初等早期に依頼し、医師の確保に努めなければならない。

4. 陸上競技の指導者を養成すること

(1) 日本スポーツ協会公認指導者資格取得研修会へ山本晴美さん(フクシエンタープライズ)、荒井光洋先生(山辺中)、林知彦先生(高遠高)の3名を派遣し、「陸上競技公認コーチ3」の資格を所得した。

(2) ジュニアコーチ「陸上競技公認コーチ1」養成講座を12/1、12/7、12/8に長野市で開催した。

5. 審判員及び検定員の資格付与に関すること

今年度は、S級昇格14名を日本陸連へ推薦し全員が認められた。また、A級昇格10名、B級新規取得61名(一般22名、高校・高専3年生39名)となった。今年度も昨年度に引き続き、高校3年生対象の講習会を別枠で実施(地区新人大会時)した。長年B級審判員で留まっている方に、A級昇格を強く働きかけたい。

また、2020～2021年度技術役員に、峯村修平先生(長峰中)と池田圭吾先生(飯山高)を継続推薦した。後小路正人先生(普及強化コーチ・岩村田高)が難関試験に合格し、第6期(2020～2023年)JRWS(Japan Race Walking Judges: 日本陸連競歩審判員)に認定された。

6. 陸上競技を研究し、機関紙、刊行物を発行して情報を提供すること

2019年度要覧と会報3号を発行した。また、長野陸協ホームページ上で、長野陸協各種事業・大会等、日本陸連、日本スポーツ協会、長野県スポーツ協会、長野陸協協賛企業各社の情報を随時提供した。

7. その他、この法人の目的達成のために必要な事業を行うこと

(1) 2027年に開催が予定される2巡目の長野国体に向けてプロジェクトを進めた。

(2) 長野陸協各種規程等の見直しを行った。

(3) 長野陸協アスレティックス・アワード2019を令和2年2月8日(土)に長野市内長野ホテル犀北館で開催し、受章者のお祝いと同時に全国都道府県対抗駅伝男子優勝、女子4位入賞の祝賀会を、80名の来賓のご臨席を賜り総勢180名余りの参加者により開催できた。

以上

II. 事務局・総務委員会・女性部

5月の役員交代後、事務局内で引継ぎ会(7月29日)を行い、諸事業を進めながら徐々に内容を引継いだ。また、事務局のパート事務員さんが4名となり、事務的な仕事を分担した。

1. 諸会議等の開催

令和元年	5月26日(日)	第47回理事会
令和元年	7月14日(日)	第48回理事会
令和元年	8月12日(月)	第49回理事会
令和元年	8月12日(月)	第22回評議員会
令和元年	10月3日(木)	阿部知事へ陳情(国体に向けた陸上競技場改修に関する要望)
令和元年	10月19日(土)	第50回理事会
令和元年	11月30日(土)	第51回理事会
令和元年	12月14日(土)	第23回評議員会
令和2年	1月26日(日)	総務委員会
令和2年	2月8日(土)	長野陸協アワード
令和2年	3月1日(土)	第52回理事会
令和2年	3月15日(日)	第24回評議員会

2. 会報発行

第166号 令和元年7月27日発行、第167号 令和2年1月1日、第168号 令和2年3月31日発行。

3. H31-R1 要覧発行：7月27日に発行した。

4. 女性部の取り組み、現状と今後の課題等

(1) 今年度の取り組み

① 年3回の部会開催：第1回 7/27(土)、第2回 11/23(土)、第3回 2020年3月は中止した。

② 女性審判員を増やす為の具体的な解決策案

③ 女性アスリートに向けた取り組み：今年度当初ア

スリートダイアリーを配布した選手(学校)への追跡調査・調査結果の取りまとめ

- ④他県における託児室開設の取り組みの視察
- ⑤女性指導者講習会への参加

(2) 現状と今後の課題

①第2回の女性部会において、女性アスリートに向けた取り組みとして行っているアスリートダイアリーの活用後の、パフォーマンスの結果や感想等の取りまとめ方法を検討した。

②今年度競技会で託児室を開設している岐阜県・三重県のうち、三重県の様子を視察した。長野県でも、特には女性審判員ですが、男女に関係なく小さなお子さんがいて審判ができないという悩みを解決できるように、託児室開設に向けて取り組む。

◆ 庶務部

1. 登録業務

- ・メール等での問い合わせに対応した。
- ・各支部へ会員証発行を依頼したが徹底できなかった。
- ・各支部へ登録費の請求を2回に分けて行ったが、速やかな振込のない支部があった。
- ・今後さらに未登録者の状況を改善したい。
- ・学連登録者への請求が徹底できなかった。
- ・過年度登録費について2名からの申し出により受領した。新規審判を取り直した方もいる。
- ・2月29日に、全16支部総務部長、総務委員会・競技運営委員会合同説明会を開催し、登録関係業務について、周知徹底を行う予定であったが中止した。
- ・登録状況は下表のとおりである。

会員登録状況 2019年12月31日現在

支部	審判				競技者		2018年度			増減
	S級	A級	B級	計	一般	総数	審判	競技者	総数	
飯伊	3	6	55	64	56	120	61	71	132	-12
上伊那	11	19	54	84	74	158	74	70	144	14
諏訪	12	18	62	92	83	175	101	69	170	5
塩尻	4	7	24	35	33	68	37	37	74	-6
木曾	4	5	12	21	2	23	28	9	37	-14
松本	13	13	65	91	125	216	93	109	202	14
安曇野	2	9	23	34	32	66	33	34	67	-1
大北	5	7	45	57	22	79	57	22	79	0
千曲	1	1	29	31	21	52	33	20	53	-1
長野市	21	19	99	139	99	238	139	101	240	-2
須坂	2	2	29	33	27	60	31	29	60	0
飯水	0	3	10	13	14	27	15	18	33	-6
中高	0	0	15	15	28	43	18	28	46	-3
上水内	0	3	9	12	16	28	13	13	26	2
上田	9	16	39	64	50	114	66	45	111	3
佐久	12	13	66	91	77	168	87	85	172	-4
小計					759	1635		760	1646	-11
マスターズ	総計279名				174	174		193	193	-19
					学生	学生	学生	学生		
中体連					3573	3573		3592	3592	-19
高体連					1640	1640		1711	1711	-71
学連					415	415		404	404	11
計	99	141	636	876	933	7437	886	5707	7546	-109
登録団体						85			86	-1
日本陸連登録数(審判員+競技)						1809				

2. その他 物品関係の管理

- ・要覧：支部以外の売り上げ 74冊
- ・記念誌：33冊、残166冊(長野135、松本31)
- ・1990年記録集：18冊 9,000円<完売>
- ・70周年記念ボトル<完売>
- ・都道府県男子駅伝V7ネクタイ：売上3本、残8本
- ・ストラップ:22本、2020新規審判員への配布を除き、残56本

◆ 経理部

1. 日常経理業務

- ・請求書への対応。・出張や立替払いの精算。
- ・必要物品の調達。・各会議の旅費日当の計算、準備。
- ・予算案の作成、中間・決算の監査準備(決算の監査は4月予定)

2. 大会関係業務

- ・大会参加料の確認、未払い者への連絡。
- ・競技役員の旅費日当、審判手帳ラベルの準備。
- ・大会後の精算業務。
- ・大会運営に関する補助金の申請。

3. 強化費関係業務

- ・各部から申請のあった事業について以下の流れで作業した。予算案確認→伝票作成→移管作業→担当者へ仮払連絡→決算書確認→仮払精算の確認→伝票作成
- ・担当分の補助金申請。

◀ 財務委員会

- ・経理関係の業務が増え続ける中、事務員協力の下、各種業務を振り分け、実施することができた。
- ・2019年度一般会計は急な支出が重なり、ほぼ収支差なしの見込みである。

・ご協賛をいただいた企業については下記のとおり。2020年度募集は11月から活動を開始したが、厳しい状況があるため、会員にも協力を呼び掛けたい。

【2019年度にご協賛いただいた企業の皆様】

ご支援に感謝申し上げます(敬称略・順不同)

【共催】信濃毎日新聞社 / SBC信越放送(株)

【ゴールドスポンサー】しなのメイト(株)/ミズノ(株)

【陸上競技大会横断幕】長野菅公学生服(株) / ジュネス八ヶ岳 / (株)中嶋製作所 / コトヒラ工業(株) / 丸山商店(株)

【プログラム広告】◆プログラム広告 中扉：有限会社 シナノ体器 / (株)マル井

【バナー広告】奥アンツーカー(株) / (株)JTB中部 長野支店 / (株)アクティブライフ / (株)杏花印刷(N sports) (株)日本旅行長野支店 / 医療法人社団みつはしクリニック / 東武トップツアーズ(株) / (株)山下フルーツ農園

【プログラム広告】◆プログラム広告1ページ：(株)長野銀行 / プレステージ(株) / 長谷川体育施設(株)長野営業所 / 三水丸山農園 / (株)キッズ・コーポレーション / あいおいニッセイ同和損害保険(株)

◆プログラム広告1/2ページ：中野土建(株) / (株)匠電舎 / (株)アンドー / (株)王滝 / (株)スマイルハウス / 松本ガス(株) / セイコータイムシステム(株) / (株)ニシ・スポーツ / 有限会社ユニバーサル運輸 / (株)長野ホテル犀北館 / (株)ワコールホールディングス / (株)県設計 社会医療法人栗山会 飯田病院 / 菅平旅館組合 / 菅平高原スポーツランド サニアパーク菅平 / 長野交通(株) / (有)丸真小口設備工業 / 瑞広庵 / 日本体育施設(株) / (株)タヤマスポーツ / (株)リッチエード / (株)ヤマウラ / 保険カフェ南長野店 保険カフェ千曲店

◆プログラム広告1/2ページ・3/5：(株)中屋スポーツ / (株)アイワ徽章

【賛助会員】ホワイトマップ / 信教印刷(株) / ホテル信濃路 / (株)テレビ信州 / (株)二葉堂

◀ 栄章審議特別委員会

・第1回会議 令和元年11月3日(日)長野陸協関係以外の栄章候補者推薦、長野陸協関係栄章候補推薦、栄章規程の改正案作成他。

・秩父宮章(富松健夫氏：東海陸協から推薦)
・日本スポーツ協会公認コーチ表彰(小山保高氏、田上仁氏)が12月に行われた。
長野県スポーツ協会有功章2名(熊谷賢二氏、内山了治氏)を推薦し受賞が確定した(2020年1月末)。

◀ 法制委員会

・第1回会議 令和2年2月23日(日)
各種規程の見直し、2019年度の事業報告、2020年度の事業計画立案、倫理規定ならびに会員を「守る、保護できる」規程の立案について。

◀ 人事委員会

・第1回会議 令和2年2月23日(日)
2019年度の重大事故の報告とその対応、2019年度の事業報告、2020年度の事業計画を立案した。栄章対象者の本委員会推薦等(委員会規程(3))について、委員会の開催時期等について審議した。

◀ 競技運営委員会

過密スケジュールの中、審判員の皆様のご協力の中で年間をおし競技会が運営できたが、6月に役員交代があったため、スムーズな交替に時間を要した。青

柳委員長から仕事の分担案が示され、後半は順調に準備ができた。

本年度は8回目を迎えた日本選手権混成の主管を行った。審判長の編成を種目ごとに設定する形に変更し、引き続き質の高い大会運営を行うことができ、陸連からも高い評価を得た。特に白澤アナウンサーのEP能力が陸連事務局長より高く評価され、7月の南部記念陸上(北海道)へ日本陸連審判員として派遣された。

県内大会においても質の高い大会運営を維持すべく、競技運営委員会を中心に各審判員にご尽力をいただいた。残念ながら地区大会における事故や審判員に対する申し入れ事案が起きてしまったことが課題に挙げられる。また、後半の大会で、意向調査に出席とあり委嘱した審判員の欠席が目立った。意向調査の方法についても、委員会の課題とし議論していく。

✦ 審判部

1. 審判編成

昨年度までの通年での調査から前後半に分けて行った。昨年度は後半を中心に欠席連絡が相次いだ。それについては解消した。しかし、郵送料の大幅な増加(単純に昨年度の2倍に加え、郵便料金の値上げ)が重くのしかかった。新たな方法について、総務委員会と相談を始めた。

2. 審判講習会の実施

県競技運営委員長と審判副部長を講師に、ルール修正について詳しく講習を行った。地区の要請に基づき陸協審判講習会も実施した。全ての講習会を5月までに終えた。

3. 審判員昇格・新規取得手続き

S級昇格14名を、日本陸連へ推薦した。また、A級昇格10名、B級新規取得61名(一般22名、高校・高専3年生39名)を認めた。昨年に引き続き今年度も高校3年生対象の講習会を別枠で実施した。

✦ 競技部

1. 長野陸協主催・主管競技会の企画運営(プログラム編成・タイムテーブル作成等)を実施した。

2. 競技会のエントリー料の納入遅れが目立ち、事務局とともに入金の確認・催促の作業に追われた。

3. 競技部長が交代となったが、スムーズに引継ぎがなされた。8月の全国歯科大、10月の北信越学生についても審判員が不足する中、学連関係者との連携もとれ、大会運営については、学連関係者から高い評価をいただくことができた。

4. 台風災害のため、オータムトライアルの開催を中止した。

✦ 道路競技部

T&F の運営に並行して、各種駅伝・ロードレースの打ち合わせにあたった。特に台風災害のため、県縦断駅伝実施に当たっては関係各所との調整を行い、実施にこぎつけた。

✦ 記録部

1. 日本陸連記録公認申請業務
2. DATA_WEB の運用

松本平の情報処理システムがバージョンアップされたが、バグが予想以上に多く対応に苦慮した。また、ワールドランキングの対応（県選手権）を行った。

◀ 施設用器具委員会

1. 2019 年度公認継続検定が実施された競技施設・公認番号・公認期間

(1) 上田古戦場ハーフマラソンコース

検定日 6 月 29 日（日）・30 日（土）公認番号 9687
公認期間 2019 年 7 月 1 日～2024 年 6 月 30 日

(2) 飯田市総合運動場陸上競技場（第 2 種）

検定日 10 月 6 日（日）公認番号 9724
公認期間 2019 年 10 月 10 日～2024 年 10 月 9 日

(3) 松本長距離競走路

検定日 12 月 7 日（土）・8 日（日）公認番号 9754
公認期間 2019 年 12 月 28 日～2024 年 12 月 27 日
コード番号 177260 ※コース変更のため、既存コース（2021 年 12 月 31 日まで公認期間）は廃止し、新設コースとして検定を行いコード番号が更新された。

2. 競技会の前日準備等
3. 松本平広域公園陸上競技場施設、用器具点検作業
4. 2027 国体会場の整備方針や具体的内容の検討等

◀ 普及強化委員会

✦ 強化部

1. 選手育成強化事業
 - 1) 強化合宿 3 月は中止とした。
 - 2) 指導者・選手県外派遣事業
・跳躍ブロック（幅・三段）1月25日（土）大阪摂津高校
 - 3) その他
・障害短ブロック 1月25日（土）～26日（日）指導者研修、選手講習実技指導（講師 早稲田大学スポーツ科学学術院 欠畑 岳氏）
・投擲ブロック 1月25日（土）指導者研修、選手栄養指導（講師 やまびこスケートの森、公認スポーツ栄養士、管理栄養士、ショートトラックナショナル専属栄養士 藤森陽子氏）
・競歩 2月16日（日）第103回日本陸上競技選手権大会 20km競歩 大会視察

✦ 駅伝部

1. 派遣試合
第 38 回山陽女子ロードレース（岡山）12 月 15 日 ハーフマラソン 結果：浅田 志帆 上田市陸協 1:22:23 49 位、小田切 亜希 竹村製作所 1:24:30 54 位
・駅伝の結果は次ページの通り

2. 全国都道府県対抗（女子）・（男子）駅伝に向けての強化対策事業：次ページの通り

3. 反省

(1) 東日本女子・都道府県（女子）（男子）共にレース内容・結果からみても、選手・監督・コーチ・スタッフ一年間の努力が報われた。各中学・高校の顧問の先生方・クラブの監督さん方が、練習会・合宿に選手を参加させていただいている事が大きな要因であり、今後高みに挑戦していける為の根幹になる、引き続きお

いしたい。
(2) いずれの派遣試合も、台風 19 号で被災された皆様、また県民の多くの方々に内容あるレース展開そして結果以上の大切な最後まで諦めない姿を少し届けられた。

4. 課題

(1) 近年他県においては、特に活躍している実業団選手を軸にチーム編成をできてきております。対抗していくには、中学・高校・大学・一般と広い視野、長い期間選手に気をかける必要があり、限られた指導者だけでは負担が重く、多くの指導者の方々に取り組んでいただく必要がある。

(2) 都道府県（男子）長野県選手団遠征計画の手段について前年と同様の内容を再度課題としたい。

(3) 支援コーチをお願いしなければ成り立たない大会にあつては、監督・すべてのコーチ・スタッフが詳細まで把握する事が必要であり、必要最低限の全体ミーティングが出来るよう考えていきたい。

✦ ジュニア部

1. 選手育成強化事業

(1) 中体連強化部・陸協強化部との共催による選手強化練習会・強化合宿（候補選手）

会場はいずれも松本平広域公園陸上競技場

① 4 月 30 日（火）、② 8 月 10 日（土）（大阪全中対策）、

③ 12 月 14 日（土） ※北信越委員長会議

④ 1 月 5 日（日）、⑤ 2 月 23 日、⑥ 3 月 8 日は（中止）

(2) 全中・北信越大会に向けての強化練習会（出場選手）

① 7 月 28 日（日）松本平広域公園陸上競技場

(3) ジュニアオリンピックに向けての強化練習会・強化合宿・壮行大会（出場選手）

① 9 月 22 日（日）～23 日（月）松本平広域公園陸上競技場
合宿、練習会が減った影響で、選手への生活面の指導は難しさを感じた。一方で、練習については合宿である必要はそれほどなく、機会を多く設定した方が良いと思われる。

(4)派遣試合・全国(北信越)合宿

①第50回ジュニアオリンピック陸上競技大会 10月11日(金)～13日(日) 等々力陸上競技場 ※台風の影響で11日のみ開催。12日以降の出場選手は現地から帰宅、長野県から移動しない等の措置を急遽とった。全員が全日程参加ではなく、競技日程に合わせての移動に変えた。準備は大変だが、経費節減にはつながった。

②北信越ブロック合宿→今年度から、新潟をスタートにして輪番制(2年ごと)、1月11日(土)～13日(月)、デンカビックスワンスタジアム

(5)ブロック別練習会の開催(地区技術講習会等の利用)

①ブロック別練習の推進。全県の練習会や合宿の間に各ブロックの練習会をできるだけ設ける。コーチの学校に呼ぶ、コーチの地区の練習会等に呼ぶなど工夫して計画する。→ハードルが徐々に行っている。またハイジャンプでも提案がなされてきている。

②地区ごと練習会の実施(底辺拡大、普及)。中体連強化部と連携し、地区ごとの担当コーチングスタッフを擁立。

(6) その他

①R2年度の中1、小6のタレント発掘。

②普及部との連携。小学校から中学校への橋渡し。陸上に取り組む生徒を増やすきっかけにする。

2. 反省、検討事項等

(1)ジュニアオリンピックは1日のみの開催であったが、優勝1を含む4種目において入賞。多くの選手は参加することができなかった。宿泊、移動について、日産に戻った場合、新横浜国際ホテルを確保し、徒歩移動となる予定。(他、宿泊場所も含めいくつかの業者と相談していく。)

(2)多くの方にお支えいただいて合宿や講習会を行えた。改めて感謝申し上げます。強化練習会等の申し込みにインターネット利用を導入し、事務処理の軽減を図った。特に、学校にファックスを送ることを回避したため、事務室への負担(迷惑)減らすことができた。

(3)ジュニアオリンピックの選手選考について、高校1年生の早生まれ選手はあくまで自費での参加とした。

(4)ジュニアの選考に関して、標準記録突破者が増えてきているので、最大人数が読めなくなっている。(喜ばしいことではあるが)選考会議が終わった後も選手が増える可能性は残されている。普及を目的とした選手選考がしにくくなってきている(予算面)。一方で普及を考えて選考した選手が入賞した例もある(昨年度男子円盤投)。「チーム長野」として、選手団を構成し、全国の舞台で戦ってきた成果が出てきている。今後も普及も含めた選手選考を行えるよう、ご理解、ご配慮をお願いしたい。

(5)本年度は推薦選手が、有効期限最終日に標準突破のために内定取り消しとなり、参加できない場面があった。選手、保護者はその旨を理解していたが、学校および顧問の理解が不十分で不信感を生んだ。→説明後、教頭先生にはご理解いただいた。顧問が書類を読んでいないケースも

多々あるので、種目担当コーチが直接コミュニケーションをとる機会をつくりたい。

(6)北信越ブロック合宿については、陸連からの予算と陸協の補助で行えてた。選手からの負担金は12,000円。移動のバスがギリギリの人数で、コーチは数名自家用車での移動となった。

★ 普及部

1. 第35回全国小学生陸上競技交流大会

1)予選会=県小学生大会 松本広域公園陸上競技場

6月21日(金)ナンバーカード・記念品搬入立ち合い、

6月22日(土)支部単位の仕分け準備

6月23日(日)選手団選出(大会優勝者)

2)全国大会出場者事前研修会:7月27日(土)松本広域公園陸上競技場、全国大会参加者とその指導者

3)本大会:8月9日(金)10日(土)11日(日)神奈川県日産スタジアム

・第1日目研修、第2日目交流大会、第3日目解団式

・監督1名、指導者2名、支援コーチ7名、

選手男子7名、女子7名

・成績4種目入賞、自己記録更新6名、県新記録1名

<反省>全国大会について:この大会成績が中学生以降の各県の全国大会成績と同様の傾向がある。全国の競技水準は年々高くなっているが、日本陸連は交流大会としての特色を出し、競技成績至上に偏らない適切な育成指導を呼び掛けている。本県でも事前研修や練習会などを通じて「陸上競技は競争すること、上達すること、友達と交流することができる楽しいスポーツ」という経験を子どもたちに与えて行きたい。

<反省>県大会・地区予選について

・新種目としてコンバインドA・B、男女混合リレーが実施された。地区予選の参加人数はコンバインドA(80mH、走高跳)が少なく、コンバインドB(走幅跳、ジャベリックボール投)は多い傾向にあった。ハードル・走高跳は従来から取り組みにくい種目であったので、普及練習会などを通じ、限られた練習環境でも取り組めるトレーニング方法を紹介するなど多様性を経験する小学生増に貢献したい。

・4-5年混合リレーの廃止にあたり、4年生100mを普及種目として実施した。県大会では適切な競技運営を行う上では種目数を増やすことが困難であるので、各支部・地区での普及目的の小学生競技会の充実を図っていただきたい。

2. 全国小学生クロスカントリーリレー研修大会

1)予選会=白馬スノーハーブクロスカントリー大会:

7月20日(土)。県内1位の駒ヶ根中沢RCを選出した。

2)本大会:12月7日(土)8日(日)、会場:大阪府万博記念公園、監督1名 指導者3名(内普及部2名を派遣)、成績 28位

<反省>クロスカントリー大会も全国の競技水準は高くなる傾向にある。日本陸連は夏の大会同様に、楽しい経験の場となるようなイベントを取り入れてきたが、本大会は今回を最後に廃止となる。これに伴い、白馬スノーハープの予選会としての位置づけは終了となる。

3) 東海小学生陸上競技大会、8月24(土) 三重県 三重交通Gスポーツの杜伊勢陸上競技場

県大会(100m、コンバインドA・B、男女混合リレー) 2~6位の競技者・チーム、総務員として普及部長を派遣した。成績 優勝3名、入賞10名

<反省> 練習会で仲良くなった仲間とお互いに励ましあう様子が見られ、競技に集中することや大会を楽しむことに繋がっている。

4) 普及活動

①陸上教室

・4月29日(日) 松本平、参加者5・6年生70名 強化部コーチにも協力を得て実施した。

・11月10日(日) 松本平、参加者4~年生60名 参加者全員が走・跳・投の複数種目を体験した。

②トップアスリート陸上教室 中止した。

③選抜練習会(5・6年生) 会場は、7、12月は松本広域公園陸上競技場、3月は中止した。

対象者：県大会上位入賞者、県ランキング上位者、有望な小学生 約80名

・7月27日(土)、・12月14日(土)

<反省>陸上教室については多くの参加者が楽しく陸上競技を体験することができ好評であった。参加者を募集することが難しかったので、県小学生大会の際に案内するなど工夫をして行く。選抜練習会では、日頃の練習に役立つ専門的指導を受けられることが選手・指導者・保護者に好評であり、成果に繋げて行きたい。

5) 諸会議

①全国普及育成担当者会議 12月22日(日) ナショナルトレーニングセンター

6) 小学生団体登録

<反省>小学生クラブチーム登録制度は実施によって大会参加者減や陸上競技離れも懸念され、陸協だけでなく、指導者・選手側にもメリットのある仕組みを検討して行く。

< 医事委員会

1. 事業報告

(1) 医療救護を主な競技会にて行った

(2) 各種会議・研修会への出席

・7月21日~22日 陸連トレーナー部救護勉強会

・8月31日 陸連トレーナー部夏季研修総会

・令和2年1月11日 陸連トレーナー部冬季研修総会

・令和2年3月20日~22日 陸連トレーナーセミナーは中止となった。

2. 成果

・医事委員会に医事部とトレーナー部ができたことにより、競技会の医療救護に関しては、トレーナー部が活動しやすくなり円滑に業務を行うことができた。トレーナー数も徐々にではあるが増加してきている。

・医事部・トレーナー部ともに所属するメンバーが増えつつあり、医師のほか栄養士、理学療法士、救急救命士などの医療職も徐々に加わっている。

・医事部として救護員を審判部の意向調査とは別枠で調査して年間計画を立てるようにした。まだ十分とはいえないが、徐々に機能し始めている。

3. 反省と課題

・トレーナー等の大会時に活動できる人員がまだ不足しており、大会時活動できるメンバーの拡充が課題である(陸連には長野国体を控えており、年2~3人ずつトレーナーを養成したい旨連絡済み)。

・医師の大会出席が義務付けられており、医師会等に早めにお問い合わせに行く必要がある。

< 中学校体育連盟

○第58回長野県中学校総合体育大会夏季大会 各地区予選会：5/25(土) 東信地区予選 [佐久総合]、6/1(土) 南信地区予選 [伊那市営]、6/1(土) 中信地区予選 [県松本]、6/2(日) 北信地区予選 [長野市営]

○第26回長野県中学校混成競技大会 6/22(土) [県松本] 【全中進出者】男子2名：古村 拓海(浅間3・2661点)、小池 集万(犀陵3・2534点)、女子2名：大森 里香(芦原3・2832点)、荻原 希乃愛(軽井沢3・2631点)

○第58回長野県中学校総合体育大会夏季大会 6/29(土)30(日) [県松本] 【県中学新記録】木藤 海琉(芦原3・男子砲丸投 14m07)、安坂 丈瑠(開成3・男子 400m 49.92)、※共通男子 110mH、共通女子 100mH、共通男女 200m で準決勝を実施。1年男女 100m で準決勝を無くし、A・B決勝で実施。競技開始時間を30分早め、9時とした。

○第65回全日本中学校通信陸上競技大会、7/20(土)~21(日) [県松本] 【県中学新記録】落合華七斗(堀金3・男子 200m 21.88)、古村 拓海(浅間3・男子四種競技 2800点) ※猛暑対策として準決勝を無くし、A・B決勝とした。競技開始時間を30分早め、9時とした。

○第40回北信越中学校総合競技大会 8/5(月)6(火) [新潟・デンカビックスワンススタジアム] 【県中学新記録】倉田 紗優加(南箕輪3・女子砲丸投 13m67)、【自己新記録】男子 8名・1チーム、女子 9名

○第46回全日本中学校陸上競技選手権大会 8/21(水)~24(土) [大阪・ヤンマースタジアム長居]、【参加者数】男子 18名(のべ24種目) 1チーム、女子 11名(のべ13種目) 1チーム、(昨年比) (参加者数 男子 -1名(のべ種目数 +3種目)、女子 ±0名(のべ種目数 -1種目)

【入賞】5位 落合華七斗(堀金3・男子 200m 21.73 県中学

新記録)、6位 吉岡 大翔(川中島3・男子3000m自己新)、7位 小坂 悠太(仁科台3・男子800m)、8位 松尾 悠登(下諏訪社3・男子1500m自己新記録)、《昨年比》(入賞者数±0名)、【県中学新記録】倉田紗優加(南箕輪3・女子砲丸投13m70)、【自己新記録】男子5名 女子2名

○第47回長野県中学校新人大会 9/14(土) 東北信大会〔長野市営〕、9/16(月) 中南信大会〔県松本〕

○第13回北信越中学校駅伝競走大会 11/23(土)〔県松本周回コース〕、【優勝校】男子 宮田(56:15大会新)、女子 七尾(石川)、県内女子は川中島の11位が最高位、本年度より、各県から優勝校を含め3チーム増の8チームずつの参加とした。また、県外チームからは3名の協力役員(走路監察)をお願いし、より安全な競技運営に努めた。

○第27回全国中学校駅伝大会 12/15(日)〔滋賀・希望が丘文化公園〕、男子 宮田中学校14位、区間賞2区 小田切幹太(9:04区間新記録)、女子 川中島中学校30位

○2019年度 U-16 JAAF ジュニア研修合宿 北信越ブロック合宿、2020(R2)1/11(土)~13(月)、会場:デンカビッグスワンスタジアム参加者:選手40名 コーチ10名、男女短距離・男女ハードル・走高跳・棒高跳・男女走幅跳・男女投てきの各ブロックに分かれて実施。

◀ 高等学校体育連盟

○第64回長野県高校総合体育大会各地区予選会 5/10(金)~12(日):北信〔長野市営〕・東信〔佐久総合〕・中信〔県松本〕・南信〔伊那市営〕

○第64回長野県高校総合体育大会、5/24(金)~26(日)〔県松本〕

○第59回北信越高等学校体育大会 6/13(木)~16(日)〔県松本〕、男子31種目で入賞、38名。女子28種目で入賞、39名。77名がインターハイ出場

○第72回全国高等学校総合体育大会 8/4(日)~8(木)〔沖縄県 タピック県総ひやごん〕、男子400m 小坂晃大(東海大諏訪)7位、800m 二見優輝(諏訪清陵)4位、1500m 富田陸空(佐久長聖)5位、女子1500m 高松いずみ(長野東)5位

○第7回全国高等学校選抜大会 8/31(土)~9/1(日)〔大阪府 長居〕

○第48回長野県高等学校新人体育大会各地区予選会

8/30(金)~9/1(日)中信〔県松本〕・9/6(金)~8(日)北信〔長野市営〕南信〔伊那市営〕9/7(土)~8(日)東信〔佐久総合〕

○第48回長野県高校新人大会 9/20(金)~22(日)〔長野市営〕

○第24回北信越高等学校新人陸上競技大会 10/25(金)~27(日)〔新潟県 新潟市営〕

○男子第70回女子34回長野県高等学校駅伝競走大会 11/3(日)〔大町市 大町運動公園〕

優勝校 男子 佐久長聖、女子 長野東

北信越進出 男子 佐久長聖 上伊那農業 上田西
女子 長野東 長野日大 伊那西

○男子第56回女子32回北信越高等学校駅伝競走大会 11/24(日)〔大町市 大町運動公園〕

優勝校 男子 佐久長聖、女子 長野東

○全国高等学校駅伝競走大会 12/22(日) 京都市

男子3位 佐久長聖 2時間0分2分28秒

女子9位 長野東 1時間0分9分20秒

○長野県高校新人駅伝競走 3/22(日)伊那市 中止
運営協力をしていただきありがとうございました。

◀ 長野県マスターズ連盟

1. 2019年度長野県マスターズ陸上競技連盟事業報告(下記表のとおり)

2. 事務局・各委員会報告

(1)事務局:今年度は役員が一新され、各専門委員会では委員長⇄委員との連携が密となり、即応性と精緻な仕事で連盟業務をスムーズに行うことが出来た。

(2)総務委員会:マスターズ及びJAAF登録者の登録状況、マスターズ登録者279人(内マスターズを通してのJAAF登録者:174人)登録者数は2016年度の336人をピークに減少傾向にある。今後、東京オリンピック・パラリンピックの出場選手の奮闘に触発され、マスターズ陸上連盟への登録、参加者の増加を期待している。

(3)競技委員会:選手権での一番の反省点は、出場クラスと人数の確認が不十分のまま参加者にタイムテーブルを送付したことである。そのため、自分のクラスの試合に間に合わない事態が起った。長野市大会では、県内からの参加料振込方法が徹底できない部分があった。反省をいかし、より良い大会運営を行いたい。

(4)記録委員会:年間をとおして各種競技会での会員の記録更新の申請受付、又、日本記録以上の連合への報告を行った。県記録に関しては定期的に更新をしている。7月の選手権では日本新記録2件・日本タイ記録

	実施事業	月・日	備考
1	2019年度登録(M連合 陸連)	通年	登録者総数 279名
2	会報発行(38号・39号)	年2回	6月、3月発行
3	賛助・協賛会員募集	通年	主催事業で実施
4	第18回東海マスターズ選手権大会(三重)	6/16(日)	大会参加者総数 455名
5	第30回長野県マスターズ選手権大会	7/14(日)	参加者総数 252名
6	第40回全日本マスターズ選手権大会(群馬)	9/13~16	長野県参加者 49名
7	第22回長野県マスターズ長野市大会	9/29(日)	参加者総数 186名
8	第32回都道府県対抗全日本マスターズ駅伝競走大会(愛知)	11/16(日)	参加者 14名
9	2019年度理事会	12/14(土)	長野市「長野県教育会館」
10	日本マスターズ新記録等の申請	通年	申請者 5件
11	2019年度評議員会	2020.1/18(土)	長野市「魚理喜」
12	2019年度研修会	2020.1/18(土)	研修会講師
13	練習会・講習会	3/22(日)	

1 件が樹立され。県陸協との関係を密にして、データ確認等迅速に処理していきたい。

(5) ロード・駅伝委員会：第 32 回都道府県対抗全日本マスターズ駅伝大会は、11 月 17 日に愛知県長久手市で開催された。今年も長野県縦断駅伝と日程が重なり、男子・女子の部とも参加出来ず、エルダーの部（対抗と交流）の 2 チームの参加となった。男子の部に参加出来れば、当然優勝争いに絡める実力があるので非常に残念でした。

(6) 広報委員会：①会報誌の発行 ②公式 HP リニューアル、サーバーの契約更新時期に伴い、これまでのサ

イト構築システムやデザインを刷新した。

◀ 長野県学連

1. 県内各種大会での審判業務の担当他。

長野マラソン、市町村対抗駅伝他、各種大会への審判協力を行った。

2. 7 月 13 日(土) 第 51 回全日本大学駅伝・第 37 回全日本大学女子駅伝予選会（長野市営）、8 月 4 日第 51 回全日本歯科（松本平）、10 月 19-20 日 第 50 回北信越学生選手権大会（松本平）、の運営協力を行った。

以上

研修報告

JRWJs 育成セミナー2019

Japan Race Walking Judges(日本陸連競歩審判員)

IRWJs(国際競歩審判員)

期日：2019 年 11 月 23 日～24 日

会場：日本陸上競技連盟事務局

後小路 正人(普及強化委員会コーチ・岩村田高校教員)

研修内容については特にこれまで出席させていただいたセミナー内容と変わりはなく余裕をもって受講することができました。

しかし、試験については筆記試験において時間に余裕がなく、あまり良い解答を行えたとはいえませんでした。当日英和規則対比版のルールブックが配られましたが、条項を探すのに時間がかかってしまいました。

前日の講習会での内容を記述すればよかったのですが、ルールブック通りに書かなければという意識が強くなってしまっていたと思います。

記述試験については、筆記に比べれば落ち着いて臨みましたが、文章の読み違え等もあり完璧ではなかったように思います。

ビデオ判定試験についてはいつも通り判定することができましたが、これに関しては結果が出てみないとどの程度の正答率かはわかりません。

合格点が 8 割ということで、県陸協から推薦していただいたにも関わらず、合格できるかどうか不安を感じます。今後も研修し勉強を続けていきたいと思っています。

以上が報告になります。

縣 正樹(松本市支部・松本深志高校教員)

1 日目は講義を受けました。競歩に関わる「競技規則」「規則と運営」「ペナルティゾーン」といったルールブック・ハンドブックに記載の内容についての講義を受けま

した。ルールブックに記載の規則を改めて確認することができました。また、普段の県内の大会がハンドブックに記載の運営方法と同じで普段の大会の様子を思い出しながら説明を聞き運営面の確認を再度することができました。また、後半は「IRWJの試験について」「海外における競歩競技会の動向」ということで海外の競歩競技会についての説明を聞くことが出来ました。最後には翌日行われる試験のビデオ映像を見ての歩形判定を実践しました。

2 日目は、試験となりました。競技規則等についての筆記試験、論述、ビデオによる判定の 3 種類を受験しました。筆記試験はルールブックの内容をしっかり熟知していないと記述できない問題も多く記述するのに苦労しました。論述では、具体的な事象が与えられその時の対応についての論述が 4 題出題されました。これは普段の競技会を想定して考えると記述はしやすかったです。ビデオによる判定は、50 題でした。1 題につき 5 秒ほど映像が流れ、レッドカードかそうでないかの判定をしました。同じ映像は合計 3 回流れますが、普段の競技会と違い瞬間を見て判断することの難しさ、また映像が全国大会・世界陸上の速い動きの競技者の映像だったため、的確な判断ができたかは不安が残りました。

今回のセミナーで、審判の質を上げることも競歩選手の競技力の向上につながると思いました。今回のセミナーで得た知識を今後の大会で活かしていきたいと思っています。セミナーに参加させていただきありがとうございます。

日本陸上競技連盟 指導者養成委員会

篠原 克修(長野陸協理事・普及部長)

期日：2019年12月22日

会場：味の素ナショナルトレーニングセンター

指導者養成委員会山本浩委員長から、日本陸連は指導者養成に注力し、競技者育成プログラムに沿った指導を

進めることの講話があった。

沼澤副委員長から、日本スポーツ協会および日本陸連の指導者制度の今後について説明があった。これまでよりも資格取得のハードルが上がっている。今後は公認コーチ取得の条件にジュニアコーチ取得済みであることが加わる。各年代のクリニック事業はクリニックモデルの伝達・啓蒙が主な目的となり、招致をした場合には各都道府県で同様のクリニックを開催することが実施条件になった。

公認コーチ・ジュニアコーチの更新講習は各都道府県の練習会等の事業を代替えにすることができるので、年1回の実施をすること。招致意向調査の締め切りは1月末。

岸、磯貝両委員から日清食品カップ全国小学生交流大会の説明があった。種目の追加変更はない。コンバインドの得点変更もない。長距離種目は実施しない。これまで3日目は帰りの移動のみであったが、3日目にも交流イベントが入る予定。運動会シーズンでもあり、3日間の参加は選手・教員ともに厳しいケースがあるため、検討要望の意見が各県担当者から多数あったため、検討をして1月中旬に返答をするとのこと。〈3日間開催となることに確定〉

残り時間30分で、指導者有資格者をより多くするための方策をグループワークでディスカッションをして、発表した。

2019年度日本陸連 全国競技運営責任者会議

酒井 剛(長野陸協理事・競技部長)

期日：2020年2月15日～16日

会場：味の素ナショナルトレーニングセンター

1. ナンバーカードの名称変更

(現行) ナンバーカード (ビブス)

(改正) アスリートビブス (ビブス)

主な理由としては、最近ではナンバーのみでなく競技者の氏名が印刷されることも多くなっているため。

2. アスリートビブスのサイズ変更

(現行) 横24cm×縦20cm

(改正) 横24cm×縦16cm ※縦が4cm短くなります。

- ・2020年度は移行期間とし、これから新たに作成するビブスについては、新規格(縦16cm)とする。
- ・現在使用している規格でも「公認しない」ということはないが、対応できる競技会では新規格にする。長野マラソン、日本選手権混成、松本マラソンあたりが該当？

3. ユニフォームのスポンサー名/ロゴの数が一つ追加できる

(現行) 製造会社ロゴ+登録所属名

(改正) 製造会社ロゴ+登録所属名+スポンサーロゴ

- ・スポンサーロゴは「商品名」や「サービス」でも可です。

例) 登録所属名「大塚製薬」

スポンサーロゴ「ポカリスエット」など

・シャツ、パンツ共に可で、大きさはいずれも縦5cm、面積40cm²以内で統一。

・これにより

①製造会社ロゴ+登録所属名+スポンサーロゴ

②製造会社ロゴ+スポンサーロゴ×2 も可。

ただし、②の場合は別のメーカーでなければならない。

・2020年度はこれまで通りの運用をしていくとのこと。

また、大学生までのカテゴリーでは現状維持だそうです。実業団チーム等へは既に周知されているようなので、長野マラソンや日本選手権ではこれに合わせたユニフォームを競技者が準備してくることが予想されます。

・このルール改正もあって、ビブスの縦の長さが短くなります。

・2020年度一年かけて陸連としての方針を示すそうですが、それまでは、国際ルールと国内ルールが混在する可能性があります。

・競技者係など対応が必要な部署もありそうですが、あまりピリピリせず、落ち着いて推移を見守っていきましょう。

4. ワールドランキングへの対応

・県選手権以上や有力選手が出場する競技会ではワールドランキングに対応する処理を次のようにお願いしたい。

(1) 氏名の英表示 パスポート表示

(2) 生年の西暦下2桁 () 表示

(3) 種目の表示

①性別：男子→M、女子→W

※女子は F (female) から W (woman) に変更された。

②フィールド種目 (HJ、PV、LJ、TJ、SP、DT、HT、JT)

③規格表示 (高さや重さ)

(4) 競技会名、競技場名の英表示

(5) 要項等に「ワールドランキング対応 (予定)」などの標記しておく。

(6) その他

・記録が出てしまってから慌てても遅いので、十分準備をしてから競技会運営を行って欲しいとのこと。もちろん、システム上のことも踏まえて可能であればです。

・出場する選手にもよりますが、春季、県選手権、サマートライアル、オータムトライアルあたりが該当？

・そして、LJ、TJについては、光波計測かメジャー計測のみがワールドランキングに対応する計測方法で、いわゆる**ルール式の計測ではNG**だそうです。本県では2ピット同時展開の場合、厳しくなりそうです。その場合、メジャーで計測でしょうか？

・また、投てきの囲いや風力測定の超音波器使用なども遵守が求められます。

(以上)